

事務事業名	母子保健推進員設置事業					☐ マニフェスト関連		☒ 全庁横断課題関連	
政策名	総合計画 04	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	健康福祉部	所属課	健康づくり推進課
施策名	23	子どもを見守り、育てる地域づくり				所属係	健康推進班	課長名	山戸宇機夫
基本事業名	90	相談支援体制の充実				担当者名	矢幡 茜	電話番号 (内線)	242-1183 2169
予算科目	会計 1	款 4	項 1	目 6	事業 65	法令根拠			
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 ↳ (開始年度 昭和62 年度 ~) ↳ (年度 ~ 年度)								
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)			
(事業内容) 行政と子育て中の親とのパイプ役として、母子保健推進員を配置。乳幼児健診等で、母親が安心して受診できるような一緒に来た子どもさんのお世話を。また、健診未受診者へ健診の勧奨のため、訪問を実施する。 (業務内容) 広報・チラシを配布し、母子保健推進員を募集。2年に1度委嘱状交付を行い、年に2回会議を開催する。健診等へ出てもらうための、日程の割り振りを行う。乳幼児健診未受診者に訪問してもらうため、依頼をする。訪問の結果を整理する。4半期に1度、支払う。 (予算の内訳) 会議費(費用弁償) 通知費 活動費						総投入量	事業費	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源	
							事業費計 (A)		0
							人件費	正規職員従事人数 延べ業務時間	
							人件費計 (B)		0
							トータルコスト(A)+(B)		0

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)
 母子保健推進員 17名 会議開催数 2回
 健診等への参加(1回の健診に2~3人)

19年度計画(19年度に計画している主な活動)
 18年度と同じ。

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等
 母子

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)
 安心して健診等を受診でき、保健指導等をしっかり聞けるようにする。

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)
 子育て不安を解消できる

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 母子保健推進員の人数	人
イ 健診等へ参加した母子保健推進員の延べ人数	人
ウ 訪問件数	件

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 4カ月・7カ月・1歳半・3歳児健診の対象者	人
イ	
ウ	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 健診の受診率	%
イ	
ウ	

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 子育て支援センターの相談件数	%
イ ファミサボ利用件数	件
ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移

				単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	年度 (最終目標)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			都道府県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円		270	124	315	315	315	315
			事業費計 (A)	千円	0	270	124	315	315	315	315
	人件費		正規職員従事人数	人		1	1	1	1	1	1
			延べ業務時間	時間		72	130	130	130	130	130
			人件費計 (B)	千円	0	180	516	516	516	516	516
			トータルコスト(A)+(B)	千円	0	450	640	831	831	831	831
活動指標	ア イ ウ	人	17	12	17	17	17	17	17		
		人	24	12	104	210	210	210	210		
		件	436	281	0	30	30	30	30		
対象指標	ア イ ウ	人			2406	2500	2500	2500	2500		
成果指標	ア イ ウ	%			90	93	93	93	93		
上位成果指標	ア イ ウ	%									
		件									

事務事業名	母子保健推進員設置事業	所属部	健康福祉部	所属課	健康づくり推進課
-------	-------------	-----	-------	-----	----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
合併を機に、母子保健推進員の活動を健診等へ参加するようにした。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？
合併前は、旧西合志のみに設置しており、妊婦及び経産婦とその赤ちゃんの訪問を実施していた。平成18年度より、健診時に一緒に来た子どもさんのお世話をするようになった。また、18年度途中より、母子保健推進員の人数が、9人から17人に増加した。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
母子保健推進員より「たくさんの子どもたちに接することができてうれしい」「こないいいことはどんどん参加したほうがよい」
健診対象者より「母子保健推進員のことを聞いていたから、今日の健診に上の子ども連れて行こうと思います」

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒ 意図の「安心して健診等を受診でき、保健指導等をしっかり聞けるようにする」ことにより、結果の「子育て不安を解消できる」ことに結びつく。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒ 行政と子育て中の親とのパイプ役であるから。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒ 対象意図とも現状で適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】⇒ 平成18年度は健診未受診者への訪問活動を実施してなかったため、平成19年度より健診未受診者へ訪問をしていく予定。健診の受診率の向上につながると考えられる。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒ 特に動きの多い子どもさんに対しては、保護者と保健師等と信頼関係を築く必要がある。廃止すると、保護者が安心して健診を受けることができず、ゆっくり相談をする機会が少なくなる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある ⇒【理由】⇒ (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ 他に類似した事業はない。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】⇒
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 最低限の報償費で活動をしていただいているため。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 母子保健推進員の日程の割り振りや、事務などを嘱託職員で行う。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒ 母子保健推進員は健診事業等に参加しているため、参加者は誰でも利用できるため、公平公正といえる。

合志市

事務事業名	母子保健推進員設置事業	所属部	健康福祉部	所属課	健康づくり推進課
-------	-------------	-----	-------	-----	----------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

平成18年度は健診未受診者への訪問活動を実施してなかった。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☒ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

現在は訪問活動をしていないので、訪問活動を実施することで、健診等の受診率は上がり、母親自身が子育てについて相談をできる機会が増えると考えられる。

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			○
	維持			×
	低下		×	×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

仕事をしている母親が多いため、訪問をしても保護者が不在の可能性がある。チラシ等を配布して、再度健診の呼びかけを行う。

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☐ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項